（別紙３）

# 公表　事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○事業所名 | 放課後等デイサービス　あびりてぃ2nd | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年　1月　22日 | | ～ | 令和7年　2月　19日 |
| ○保護者評価有効回答数 | （対象者数） | 14 | （回答者数） | 14 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和7年　2月　10日 | | ～ | 令和7年　2月　19日 |
| ○従業者評価有効回答数 | （対象者数） | 4 | （回答者数） | 4 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年　3月　7日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 作戦会議の実施による自己表現力の向上<br>子どもたちが気軽に意見を言える場を提供し、成功体験・失敗体験を通じて自己表現力を高める機会がある。<br>ルール決めや人間関係の課題解決など、主体的に考える力を養う。 | おやつや飲み物を楽しみながら行う話し合いの場です。リラックスした雰囲気の中で行うことで、緊張を和らげ、意見を言いやすくすることが目的です。発表をすると追加のおやつがもらえたり、褒め言葉をもらえたりする仕組みを取り入れ、楽しみながら自己表現の力を伸ばせるよう工夫しています。この取り組みにより、最初は発表が苦手だった子どもたちも積極的に手を挙げ、意見を言えるようになりました。今では、作戦会議を楽しみにする子どもも多く、他の活動でも自然と発表ができるようになっています。 | 意見を出しやすくするために、ホワイトボードやカードを活用し、発言を可視化する工夫を行います。また、絵やジェスチャーなど言葉以外の表現方法を取り入れ、発表が苦手な子どもも参加しやすい環境を整えます。<br>さらに、発表の工夫やユニークな意見には特別なおやつやバッジを用意し、楽しみながら意見を伝えられる仕組みを強化します。司会や進行役を交代制にすることで、発表以外の役割も経験できるようにします。<br>発表後には、他の子どもが感想や褒め言葉を伝える時間を設け、相互のフィードバックを促します。また、作戦会議で話し合った内容を他の活動に活かし、実践的な学びへとつなげます。<br>このような取り組みを行うことで、子どもたちがよりリラックスしながら意見を伝え、自己表現の力を伸ばせる環境を整えていきます。 |
| 2 | 姿勢保持のための毎日の「1分間姿勢タイム」の導入<br>体幹の弱い子どもへの支援を日課として行い、継続的な取り組みで姿勢保持力を向上させる。<br>クールダウンの役割も果たし、活動への集中力を高める工夫がある。 | 体幹の弱い子どもたちの姿勢保持をサポートするための取り組みです。正座やあぐらなど、無理なくできる姿勢で静止し、自分の体の感覚やバランスを意識する時間としています。<br>毎日の継続で姿勢保持の時間が伸び、深呼吸を取り入れることで自然と静かな環境が生まれます。活動の始まりや終わりのクールダウンにも活用し、集中力の向上にもつなげています。今では、先生たちが忘れていると「1分間姿勢は？」と子ども達から教えてくれます。 | 姿勢のバリエーションを増やし、バランスポーズやヨガの要素を取り入れることで、楽しみながら体幹を鍛えられるようにします。また、タイマーや音楽を活用し、時間の感覚をつかみやすくする工夫を行います。<br>さらに、姿勢をしっかり維持できた子どもにシールを配るなど、達成感を得られる仕組みを導入します。活動中の写真や動画を見返す機会を作り、自分の姿勢の変化に気づけるようにすることも効果的です。<br>保護者とも連携し、自宅で取り組める姿勢トレーニングを紹介することで、日常生活でも意識できるよう支援していきます。また、深呼吸に加え、気持ちを落ち着かせる言葉を唱えるなど、集中力向上につながる工夫も取り入れていきます。<br>これらの取り組みにより、楽しみながら姿勢保持の習慣を身につけ、集中力や体幹の向上につなげていきます。 |
| 3 | 「乗車券制度」による主体的行動の促進<br>クリアすると活動での外出ができるミッションを設定することで、自発的な行動を促す仕組みがある。<br>視覚的支援や事前の声かけなどを活用し、子ども自身が課題に気づき、改善策を考えるプロセスを重視している。 | 視覚的支援や事前の声かけを活用し、指示を理解しにくい子も少しずつ自分の課題を意識し、改善策を考えるプロセスを大切にしています。「できなかったから行けない」のではなく、「できたから行ける」ことを前提とし、振り返りを通じて成功体験につなげています。最終的には、社会に出たときに困難を乗り越える力を育むことを目的としています。 | 成功体験を増やすために、ミッションを細かく分け、達成しやすい小さなステップを設定します。また、クリアの基準を明確にし、視覚的に分かりやすくすることで、子どもたちが自信を持って取り組めるようにします。<br>視覚的支援を強化し、ミッションの進捗を管理できるチャートを導入することで、達成状況を一目で確認できるようにします。また、子どもそれぞれの特性に合わせたミッションを設定し、無理なく挑戦できる環境を整えます。<br>楽しみながら取り組めるように、ポイント制度やゲーム形式のミッションを導入し、モチベーションを高めます。さらに、社会で活かせるスキルを学べるよう、時間管理や協力して行動する力を養う課題を取り入れていきます。<br>これらの取り組みを通じて、子どもたちが「できた！」という実感を持ちながら主体的に行動できる力を育めるよう、制度の充実を図っていきます。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 個別支援と集団活動のバランス調整<br>個性を尊重する方針と、集団でのルールを学ぶ機会の両立が難しい場合がある。<br>子どもによっては、集団行動への適応に時間がかかる可能性がある。 | 個別支援を重視すると集団活動の機会が減り、逆に集団活動を優先すると、支援が必要な子どもへの配慮が難しくなることが課題です。 | 子ども一人ひとりの発達段階や特性に違いがあり、集団でのルールを学ぶ機会を確保しつつ、無理なく参加できる環境を整える必要があります。また、集団活動が苦手な子どもには、段階的に適応できる支援が求められます。<br>職員間で支援の基準を共有し、個別支援と集団活動を適切に組み合わせる工夫が大切です。 |
| 2 | 特性の強さにより利用児間でのトラブルが多くなる傾向にある。衝動性がコントロールできずに叩いてしまう、蹴ってしまうことも多い。 | 衝動性のコントロールが難しく、叩く・蹴るといった行動が増えることが課題です。感情を適切に表現することが難しいため、興奮や不満を言葉ではなく行動で示してしまうことが要因の一つと考えられます。また、感覚過敏やルールの理解不足により、トラブルが起こりやすい状況もあります。 | 感情のコントロール方法を学ぶ機会を増やし、視覚的支援やクールダウンの時間を設けることが重要です。さらに、トラブル後の振り返りを丁寧に行い、本人が納得できる形で学びを得られる環境を整えていく必要があります。 |
| 3 | ありがたいことに、ご利用希望者の方が多いが、退会者も少なく、支援が必要だと思われるお子さん達にご利用いただけない事。 | 利用希望者が多い一方で、退会者が少ないため、新たに支援が必要な子どもを受け入れにくい状況が課題となっています。 | 支援を必要とする子どもたちに十分な機会を提供できるよう、受け入れ体制の見直しや、支援の枠組みを工夫する必要があります。 |

（別紙５）

# 公表　事業所における自己評価結果

| 事業所名 | 放課後等デイサービス あびりてぃ2nd |
|---|---|

公表日　令和　7　年　3　月　7　日

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | 3 | 1 | | |
| | 2 | 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。 | 4 | 0 | | |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 3 | 1 | 階段には手すりが設置されている。 | 部屋の入り口や玄関などに段差があるが、現在利用中の児童に関しては障害特性等も含め、構造的には問題なし。 |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。 | 3 | 1 | | |
| | 5 | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | 4 | 0 | 周囲の音がうるさく感じたり、他の児童とトラブルになった場合は、活動から離脱して別室でクールダウンを行うことができる。 | |
| 業務改善 | 6 | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。 | 4 | 0 | | |
| | 7 | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 4 | 0 | | |
| | 8 | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 3 | 1 | | |
| | 9 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | 2 | 2 | | 第三者評価はまだ実施されていない。 |
| | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | 4 | 0 | 月に1回程度、職員に外部研修を受ける機会を提供している。 | |
| 適切な支援の提 | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | 4 | 0 | | |
| | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。 | 4 | 0 | | |
| | 13 | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | 4 | 0 | 個別支援計画会議には、職員全員が参加するよう努めている。 | |
| | 14 | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。 | 4 | 0 | | |
| | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | 2 | 2 | | アセスメントツールは存在するが、現状では十分に活用されていない。今後、職員全体で共有し、活用を促進していく。 |
| | 16 | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 4 | 0 | | |
| | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | 4 | 0 | | |
| | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | 4 | 0 | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 供 | 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。 | 4 | 0 | | |
| | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | 4 | 0 | | |
| | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。 | 3 | 1 | | 送迎があるため、全員での打合せは難しいが、帰りの会などを活用して情報共有を行うようにする。 |
| | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | 4 | 0 | | |
| | 23 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | 4 | 0 | | |
| | 24 | 放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。 | 4 | 0 | | |
| | 25 | こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。 | 4 | 0 | | |
| 関係機関や保護者との連携 | 26 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | 4 | 0 | | |
| | 27 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。 | 3 | 1 | | |
| | 28 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。 | 4 | 0 | | |
| | 29 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。 | 1 | 3 | | |
| | 30 | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。 | 0 | 4 | | 該当する児童はいない。 |
| | 31 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。 | 2 | 2 | | |
| | 32 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。 | 3 | 1 | 他の放課後等デイサービスの児童との交流の機会を積極的に設けている。 | |
| | 33 | （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。 | 1 | 3 | | |
| | 34 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。 | 4 | 0 | | |
| | 35 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | 2 | 2 | | 保護者が参加できる機会として、茶話会や運動会があるが、今後さらに参加の機会を増やしていく予定である。 |
| 保 | 36 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 | 3 | 1 | | |
| | 37 | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | 4 | 0 | | |
| | 38 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。 | 4 | 0 | | |
| | 39 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | 3 | 1 | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 保護者への説明等 | 40 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。 | 4 | 0 | 年に2回、茶話会を開催し、保護者同士の交流の場を提供している。 | |
| | 41 | こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | 4 | 0 | | |
| | 42 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。 | 4 | 0 | 年に4回、通信を発行して保護者に配布しており、さらにブログやSNSを通じて情報発信も行っている。 | |
| | 43 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | 4 | 0 | | |
| | 44 | 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | 4 | 0 | | |
| | 45 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | 1 | 3 | | 今後は地域住民を招待するイベントを企画し、地域との交流を深めていく予定である。 |
| 非常時等の対応 | 46 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | 4 | 0 | | |
| | 47 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | 4 | 0 | | |
| | 48 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。 | 4 | 0 | | |
| | 49 | 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | 3 | 1 | | 該当する児童はいない。 |
| | 50 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | 4 | 0 | | |
| | 51 | こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。 | 3 | 1 | | |
| | 52 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | 4 | 0 | 毎日のミーティングで、ヒヤリハットの収集と検討を行っている。 | |
| | 53 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | 4 | 0 | | |
| | 54 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | 4 | 0 | | |